



FUJI TELEVISION
SDGs ACTION REPORT
2022

フジテレビ

SDGsアクション リポート

2022

未来を いっしょに創ろう



Let us create our future together

テレビ局はSDGsの
目標達成のために何をするの？

今、地球上で何が起きているのかを、
多くの方に
「知ってもらう」ために「伝えること」

伝えたその先は？

知ること、もしかしたら自分も何か
できるかも?!と思ってもらえたら…

そうか、みんなで行動すれば、
変わるかもしれない！

みんなでアクションを起こせば、未来はきっと変えられる！

SDGsは、地球上で今を生き、未来を生きる
すべての人にとって大事な目標です。
未来のために、私たちメディアにできることは
身近なことからアクションを起こすきっかけをつくり、
SDGsを世の中へ大きく広げていくこと。
私たちは、一緒に考え行動するきっかけとなる
コンテンツを創造・発信していきます。



誰一人とり残さない社会の実現に向けて…

OUR VALUE & MISSION

伝える、変える



— Transforming our World —

「伝える、変える」は私たちのSDGs推進のスローガンです。
テレビの強みを活かし、創造力と発信力で
世界を変え、SDGsが掲げる
社会課題の解決に努めて参ります。

重要課題

Materiality

パートナーシップで伝える、変える



フジテレビ企業理念

挑戦と創造

challenge and creation

WE SUPPORT



フジテレビの親会社フジ・メディア・ホールディングスは2018年4月より
「国連グローバル・コンパクト」に署名しています。
また、フジテレビは2018年12月に「SDGメディア・コンパクト」に署名し、
メディアとしてSDGsの推進に努めることを約束しています。

※「SDGメディア・コンパクト」とは、世界中の報道機関やエンターテインメント企業に対し、
その資源と創造力でSDGs達成のための活動を促すことを目的とした協力推進の枠組みです。



Osamu
Kanemitsu

トップメッセージ

Top Message

国連が定めたSDGs(持続可能な開発目標)の達成期限2030年まであと約8年、サステナビリティへの関心は日に日に高まっています。弊社は2021年新たに社長直轄組織として、CSR・SDGs推進室を設けました。会社一丸となって、これまで以上にサステナビリティへの取り組みを加速させていきたいと思っています。

SDGsをテーマにしたレギュラー番組『フューチャーランナーズ』や、ニュース、情報番組での特集、企画等に加え、BSフジ、ニッポン放送とともに展開する、「楽しくアクション! SDGs」は今年で2年目を迎えました。これからも、番組やコンテンツを通じて様々な社会課題をお伝えし、皆様が行動を起こすきっかけ作りができればと思っています。

また、番組以外でも、アナウンサーによる出前授業や、食育出前授業、デジタル紙芝居など、社会貢献活動を多方面にわたって展開しております。活動を推進していくうえで、大きな力となっているのは、社内横断のプロジェクトチームの存在です。2006年にCSRの専門部署が発足して以来継続しているチームで、現在では約50名が部署を超え、年代を超えて活動しています。

長引くコロナウイルスの影響やウクライナ情勢など、社会情勢は厳しさを増していますが、より良い社会の実現に向けて社員一人ひとりができることに取り組み、企業としての社会的責任を果たして参りたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

2022年6月

金光 修 代表取締役社長

金光 修



2022年度 アンバサダー:EXIT

テレビの力で、SDGsを自分ごとに

～未来はきっと変えられる!～

「楽しくアクション!SDGs」は、フジ・メディア・ホールディングス傘下のメディア企業が集結して2021年にスタートしたSDGs推進プロジェクトです。フジテレビ・BSフジ・ニッポン放送の3社がそれぞれの強みを活かして、番組を通じて持続可能な社会に向けた発信を行っています。

2022年2月21日～3月20日にかけての1ヶ月間は、推進強化月間とし、多数の持続可能な未来に向けた番組を視聴者に届けました。

今、地球上で起きていることを映像とともに「伝え」、その上で一人ひとりがアクションを起こす「きっかけ」をつくることをめざして、数多くの番組を制作・放送しました。

映像が持つ人の心を動かす力と、テレビの発信力・伝える力を駆使し、温暖化の現状や、このままいくと地球はどうなってしまうかなど、ドラマ、報道・情報番組・バラエティ番組等多様な形で伝えました。

また、一人でも多くの方に見て頂けるようTVer、FODなど見逃し配信も積極的に行いました。



2022年2月～3月に放送したSDGs関連の特別番組

ドラマやバラエティ、情報番組で持続可能な未来へ向けた内容を放送！



『木のストロー』

木のストロー

プラスチックの削減や森林保護につながる世界初のサステナブルなアイテムとして注目の“木のストロー”。住宅メーカー広報課勤務の女性が数々の困難を乗り越えて、間伐材を再利用した木のストローを完成させるまでの実話をドラマ化したもので、新しい手法でのSDGsの発信が話題を呼びました。ドラマを通じて環境問題を身近に感じてもらい、考えるきっかけを提供しました。

【出演】堀田真由、片寄涼太(GENERATIONS from EXILE TRIBE)、小日向文世(友情出演)、鈴木保奈美
(原案:『木のストロー』アキュラホーム 西口彩乃・著(扶桑社))
[2022年2月26日 15:30～16:30放送(関東ローカル)]



『EXITの未来を本気で考えるII ～フューチャーランナーズSP～』

EXITの
未来を
本気で考えるII
フューチャーランナーズSP

SDGsのレギュラー番組『フューチャーランナーズ』(7ページ参照)の特別編の第2弾。今回は気候変動をテーマに環境先進国アイスランドを取材。地球温暖化の影響で消えゆく氷河や、地熱エネルギーに着目した最先端の施設「オルカ」に日本のメディアとして初潜入。また、スタジオ部分は、100台以上のカメラを用いて空間全体を3Dデータ化するボリュメトリック技術を採用し、地球の未来をリアルに体感できるような演出を行いました。

【出演】EXIT(兼近大樹、りんたろー。)宮澤智アナ
[2022年3月5日 15:30～16:30放送(関東ローカル)]



『世界のアップレ女性列伝 SDGsバラエティ 生様様』

世界の女性たちのアップレな生き様を楽しみながら、ともにSDGsについて考える番組を全国ネットで放送しました。この番組の放送2日前(3月8日)は、世界で活躍する女性たちをたたえる国際女性デー。そのパワフルな生き様にフォーカスすることで、SDGsのゴール5「ジェンダー平等」について考えるきっかけを提供しました。

【出演】MC:風間俊介、桐谷美玲
ゲスト:朝日奈央、IKKO、神田愛花、高地優吾(SixTONES)、田中卓志(アンガールズ)、ヒコロヒー、ヒロミ(かな順)
[2022年3月10日 20:00～21:54放送]

地球
HEROES
楽しく地球を救っちゃおう!!



『地球HEROES～牛のゲップから地球を救え!～』

2021年に続くSDGs特番第2弾。今回のテーマは地球温暖化を招く温室効果ガスのひとつ、メタンガス。世界のメタンガス排出量の約3割が家畜からと言われています。番組では、「牛のゲップ」に注目し、牛から出るメタンガス削減に取り組み、牛とともに「持続可能」な未来をめざす酪農家、畜産農家、大学教授、飲食店、企業等を取材。EXITならではの視点で“地球HEROES”たちの取り組みを、チャラく、アツく、伝えました。

【出演】EXIT(兼近大樹、りんたろー。)徳田聡一朗アナ
[2022年3月12日 14:30～15:25放送(関東ローカル)]

2022年3月7日～13日 SDGs強化ウィークを実施

報道番組や情報番組でSDGsに関する企画を集中して放送！

2022年3月に「SDGsウィーク」を設け、ニュース番組内で、SDGsに関するシリーズ企画を集中して放送しました。



『Live News α』

『Live News α』では、日ごろからSDGsに関する企画を多数放送しており、期間中も衣料品のアップサイクルや金継ぎ、脱炭素の取り組みなどを放送しました。
※ニュースサイトFNNプライムオンラインとも連動



『Live News イット!』

Snow Man 阿部亮平さんがガチャピンと一緒に東京都心で進むクリーンエネルギーの活用等最先端の取り組みを取材



『ネプリーグSP』

林修先生 SDGsクイズを出題
[2022年3月7日 19:00～20:54放送]



『めざまし8』

地球HEROESプロジェクトと称して、SDGsに取り組む個人や企業、団体等(HEROES)を紹介



『ノンストップ!』

SDGsをテーマにノンストップ!サミットを放送

社内に向けた取り組み

フジ・メディア・ホールディングスと合同で社員・スタッフ向けに、多様性理解のための「ユニバーサルマナー検定」3級を取得する講習会を開催したり、情報制作局社員が製作し、2020年10月に公開されたホセ・ムヒカ元ウルグアイ大統領を密着したドキュメンタリー映画『ムヒカ 世界でいちばん貧しい大統領から日本人へ』の社内上映会を行うなど、放送以外での取り組みも実施しました。

ユニバーサルマナー検定



[2022年3月9日実施]

お台場合同清掃活動



[2022年3月10日実施]

映画『ムヒカ』社内上映会



[2022年3月14日実施]

田部井監督

Pick up!

フジテレビCSR・SDGs推進室編 「10代からの地球の守り方 SDGsの教科書」を出版

SDGsの169のターゲットをすべて掲載するとともに、解説文を添えた書籍を出版しました。より深く理解できるよう、アナウンサーや記者・プロデューサーによる、実体験に基づいたコラムを掲載しています。

[誠文堂新光社より2022年3月15日発売]



SDGsのレギュラー番組

一過性ではなく、SDGsをレギュラー番組で伝え続けています



『フューチャーランナーズ～17の未来～』

SDGsをテーマにしたミニ番組『フューチャーランナーズ』を2018年7月から制作・放送しています。テレビの強みである「発信力」と「クリエイティブ能力」を活かして、課題解決に向けて熱心に取り組む人たちを紹介することで、SDGsを身近に感じてもらうとともに、多様な活動が認知されパートナーシップを生むきっかけになればと考えています。これまでに190人以上を取材し、より良い社会をめざす“ランナー”たちの熱い思いを伝え続けています。

[フジテレビ 毎週水曜22:54～23:00放送(関東ローカル)]

[BSフジ 毎週土曜21:55～22:00放送(全国)]

より多くの
方々に届ける
ために…



- ・英語字幕付きで放送 ・公式サイトですべての放送動画をアーカイブ化
- ・FNNプライムオンラインで記事化

●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/futurerunners/>

番組の英語字幕から生まれた 英語教育サイト



番組から生まれたSDGsと英語を同時に学べる教育コンテンツ「サステナ英語レッスン」。SDGs達成のための行動のヒントを紹介しています。使える英語表現を鈴木唯アナの発音で紹介。[※現在 休止中]

●公式サイト <https://sasutena-eigo.fujitv.com/>

『サステナ!～こんなところにもSDGs～』



ファッションやグルメという身近な話題はもちろん、都会の最先端SDGsから地方創生のSDGsプロジェクトに至るまで、あらゆるテーマを“楽しく”学ぶ、情報バラエティー番組を放送しています。

ゆるテーマを“楽しく”学ぶ、情報バラエティー番組を放送しています。

[出演] SHELLY、倉科カナ、神尾楓珠

[毎週土曜9:55～10:25放送]

●TVerで放送後7日間見逃し配信

『体感! サステナWAVE』



2021年7月よりスタートしたSDGsのミニ番組『体感! サステナWAVE』は、フジテレビアナウンサーが、サステナブルな取り組みを自ら体験リポートすることで、SDGsを「自分ごと」として捉えてほしいという思いで放送しています。

みを自ら体験リポートすることで、SDGsを「自分ごと」として捉えてほしいという思いで放送しています。

[毎週火曜22:54～23:00放送(関東ローカル)]

●TVerで放送後7日間見逃し配信

●アナウンサーのインスタとも連動

『めざまし8』



EXITが月1回のレギュラーコーナーでSDGsにつながる様々な活動を取材し、スタジオで伝えています。

[毎週月～金曜 8:00～9:50放送]

●Youtube動画 <https://youtu.be/s7GyBchtjbo>

『GO!GO!チャギントン』



子どもたちに大人気のチャギントンで月1回、SDGsについて親子で学べるコーナーを放送。以下よりご覧頂けます。

[毎週日曜 6:15～6:30放送]

●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/chuggington/index.html>

2021年9月の国連総会にあわせたSDGsウィーク

ニュース番組を中心にSDGsをテーマに発信

9月25日のSDGsが採択された日に向けた1週間をグローバルゴールズウィークと位置づけ、ニュース番組を中心にSDGsが掲げる課題解決に向けたアクションを発信しました。



©ガチャムク

news

イット

Live
News
α

FNN
プライム
オンライン

『Live News イット!』では、ガチャピンが現場取材を行い、航空業界のSDGsへの取り組みを伝えた他、『FNN Live News α』では「循環社会」をテーマに、地球に優しいコスメ等、身近な話題を取り上げました。FNNプライムオンラインでは、これらの企画をオンライン向けに記事化するなど、多角的に繰り広げました。BSフジ、ニッポン放送、産経新聞社とも連動しました。

その他の取り組み



SDGsで変わる未来

—10代がアイデアを英語でプレゼンテーション

次世代育成を目的に「Voice of Youth Empowerment サステナ英語プレゼンテーションチャレンジ〜地球の未来は、キミが変える〜」を開催しました。海外を含めた22人の若者が、地球規模の課題解決策を英語で提案し、未来へ「声」を上げるイベントです。

【出演】フリーアナウンサー 木佐彩子、パトリック・ハーラン、宮城教育大学・見上一幸名誉教授、露木志奈
[2021年11月21日オンライン配信]



SDGsセミナー「シンポジア」を開催

大人にもっとわかってほしい! — 社内及び系列局で働く人を対象に、SDGs啓発セミナーを開催しました。3人のパネリストのうち2人はZ世代でSDGs活動家。未来のリーダーである彼らと様々なアイデアを共有しながら、メディアが何をすべきかを意見交換しました。

【出演】横浜国立大学2年(当時)入江蓮斗、環境活動家・露木志奈、博報堂DYホールディングスCSRグループ推進担当部長(当時)川廷昌弘
[2021年5月17日オンライン配信]



「HY SKY Fes 2020→2021」を放送

「子供たちが夢を見つける場所をつくる」をテーマに2021年12月に沖縄で開催された、沖縄出身のアーティストHY主催の音楽フェスの模様をCSと地上波で放送しました。世界一クリーンなフェスをめざして清掃活動を徹底。ライブと平行して行われた廃材を利用した楽器をつくるワークショップでは、HYが参加者とセッションをするなど、音楽を通してSDGsを発信するイベントを、メディアとして応援しました。

[2022年2月26日 18:00~20:30 フジテレビ TWO ドラマ・アニメ(CS 放送)]
[2022年3月17日 25:45~26:45 フジテレビ(関東ローカル)]



THE ODAIBA 2021 バーチャル冒険 アイランド

THE ODAIBA 2021

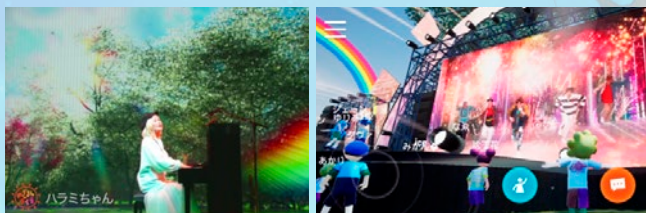
「第9回スティービー・アジア・パシフィック賞」イベント部門
“Innovation in Entertainment Events”において金賞を受賞

この賞は世界トップクラスのビジネス賞で、コロナ禍でリアルからバーチャルイベントへ転換し、世代を問わず魅了する企画や、他のアイデアに発展できる持続可能な取り組み・革新性などが高く評価されました。

リアル開催 2021年7月21日～9月5日 / バーチャル開催 2021年8月14日～9月5日

『めざまし8』とTikTokの連動企画

めざましライブ



期間中メイン会場の「つながるステージ」に16のアーティストが登場！4面LEDパネルのスタジオ「BLACK BOX」で収録した熱いライブを17日間にわたってお届けしました。

SDGsクリエイターズグランプリ



視聴者が考えるSDGsなモノ・コト・ヒトを1分以内の動画にし、TikTokに投稿してもらいました。約800本のオリジナリティあふれる動画の中からグランプリを選ぶ番組も放送しました。

総再生回数：約3,400万回

[2021年9月10日 26:25～27:25放送]

グランプリ受賞作品：モモティー「軽度知的障害の大変さ」



True Colors Festival スペシャルライブ



日本財団「True Colors Festival」※スペシャルライブを配信。
世界で活躍する障害のあるアーティスト6組のライブを届けました。

[2021年8月26日～31日の6日間]

※True Colors Festivalとは？

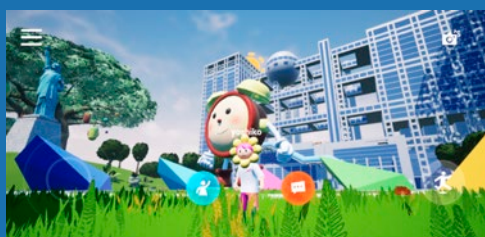
誰もが居心地の良い社会をめざし、パフォーミングアーツを通じて障害、性、世代、言語、国籍などを超えてみんなで楽しむ日本財団主催の超ダイバーシティ芸術祭。

合言葉は、「はなれていても、つながる！」

コロナ禍で人と人がつながりにくい今だからこそ、「心を通わせ合い、一緒に楽しめる空間を提供したい」そんな思いで、恒例の夏イベントをバーチャル空間で展開しました。専用アプリをダウンロードすることで、日本中どこからでも参加可能に。バーチャルステージでの「めざましライブ」や、障害者、性、世代等に誰もが一緒に楽しめる芸術祭「True Colors Festivalスペシャルライブ」、「SDGs CHALLENGE 2021 未来を変えるFUTURE TALK」等、多様性を認め合うダイバーシティの精神とSDGsをテーマにしたコンテンツを多数提供しました。



ユーザーは自身のアバターを介して、
バーチャルパークで
様々なコンテンツを楽しめます。



SDGsをテーマに6本のトークイベントを配信

未来を変えるFUTURE TALK



ロゴ制作:横浜国立大学の学生プロジェクト「Design,more」

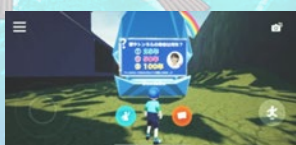


“地球の未来”を持続可能にするために今、私たちにできることは何なのか？SDGsの達成期限まであと8年となる中、具体的なアクションにつなげていくため、6つのテーマでトークセッションを開催しました。

後援:国連広報センター、経団連、グローバルコンパクトネットワークジャパン
※このトークイベントで使用した電力は、J-クレジットを活用し、実質ゼロカーボンと再生可能エネルギー100%を実現しました。

- 1 カーボンニュートラルとその先の未来
～小泉環境大臣×Z世代～
- 2 ファッションはどこまでサステナブルになれるのか？
- 3 電子ごみに見る資本主義の真実と責任ある消費
- 4 セクシュアル・マイノリティと新しい家族のカタチ
- 5 福祉の未来を描く
～知的障がい者の経済的自立～
- 6 トイレから考えるSDGs

シークレットシェル SDGsクイズ



バーチャル空間内に毎日場所を変えて出没するシークレットシェル。近づくたびにSDGsにまつわるクイズ等が現れ、持続可能な未来のために知っておきたい豆知識を楽しみながら学べるよう工夫しました。

次世代育成支援

Support for
the Next Generation

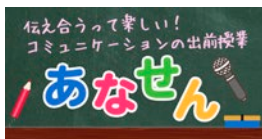


山崎夕貴アナ

“伝えるプロ”が子どもたちの伝え合う力を継続サポート

アナウンサーによる出前授業「あなせん」

「あなせん」(アナウンサー先生)は、2005年にアナウンサーが主体となってスタートした小学生を対象にした出前授業です。デジタル世代の子どもたちにface to faceで伝え合うことの楽しさを知ってもらうとともに、コミュニケーション能力の向上につながればと考え継続しています。



山本賢太アナ、小澤陽子アナ

2021年度
15校 779人
を対象に実施

東京都

江戸川区立江戸川小学校
荒川区立第九峡田小学校
(東京文化会館コラガ)
世田谷区立松丘小学校
葛飾区立鎌倉小学校
清瀬市立芝山小学校
日の出町立大久野小学校
足立区立関原小学校

江戸川区立上小岩第二小学校
足立区立足立入谷小学校
(東京文化会館コラガ)
練馬区立大泉第四小学校
江東区立東川小学校
埼玉県
深谷市立豊里小学校
羽生市立川俣小学校

佐賀県

佐賀県立武雄高等学校
武雄市立朝日小学校



5年1組-岡



子どもたちから届いたお礼の手紙

●プロジェクト概要

対象:小学校3年生~6年生

講座内容:[スピーチ]

[インタビュー]

[音読]

実施エリア:関東1都6県



オリジナルテキスト

コロナ禍で課外活動が減る中、リアルでの開催を希望する声が多く、それに応える形で感染対策を講じた上で開催しました。

活動実績

2005年から約17年間で

266ヶ所 約2万900人

の子どもたちを対象に実施

(2022年3月末現在)

いつでもどこでも楽しめる読み聞かせコンテンツ

「デジタル紙芝居」



FNS系列コラボ作品

- ・東海テレビ「ごんぎつね」
- ・北海道文化放送「ブレーメンの町楽隊」
- ・福島テレビ「シンデレラ」
- ・テレビ西日本「はだかの王様」
- ・仙台放送「注文の多い料理店」



井上清華アナ

コロナ禍でうち時間を楽しんでもらいたいという思いで、2020年にスタートしたうち応援プロジェクト「デジタル紙芝居」。2021年度はこれまでの6作品に加え、新たに2作品が加わりました。また、系列局とコラボレーションしたものも制作しました。

デジタル紙芝居を活用した朗読講座

東京都武蔵野市の小学4～6年生を対象にデジタル紙芝居「ごんぎつね」を活用した朗読講座を実施。

[2021年12月14日実施]



武蔵野プレスにて

子どもたちの健やかな成長をサポート 食育出前授業ハロー!どっこくん



愛知県名古屋市の保育園・幼稚園で実施。2021年11月11日開催
「どっこくん体操」はYouTubeで公開中

季節の食材をバランスよく食べることや運動の大切さを教える食育出前授業。うんちのキャラクター「どっこくん」の大型紙芝居や体操等で構成されたプログラムを、全国各地の幼稚園やイベント等で実施しています。

活動実績

2010年からの累計

191ヶ所 約2万3,000人を対象に実施

次世代の脚本家を発掘 ヤングシナリオ大賞



第33回大賞受賞作品『踊り場にて』

「ヤングシナリオ大賞」は、1987年に設立されたシナリオコンクールです。33回目となる2021年度は1,978編の応募の中から、生方美久さんの『踊り場にて』が大賞に選ばれました。プロのバレエダンサーを目指して海外で活動していた主人公・美園舞子が、夢を諦め、高校教師として復職、生徒たちとの交流を通して人生を見つめ直すストーリーをドラマ化し、放送しました。

[2021年12月30日24:25～25:25放送]

他団体・他社とのコラボ

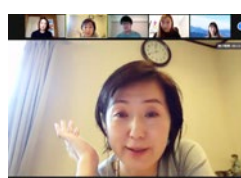
◀ パナソニックKWNに参加 ▶



演劇プロデューサー・西山喜久恵アナ

パナソニックの映像制作支援プログラムKWN(キッド・ウィットネス・ニュース)に、関西テレビとともに参加しました。発声・滑舌のレッスンと映像制作のポイントについて特別授業を提供。小学生の部では2校から17人が、中高生の部では、17校120人がオンラインで参加しました。

◀ 児童養護施設の子どもたちを支援 ▶



佐々木恭子アナ

親を頼れない子どもたちが、自らの経験を語るイベント「コエール」(主催:認定NPO法人ブリッジフォースマイル)の趣旨に賛同し、スピーチを行う9人に対して、奥寺・西岡・佐々木・梅津の4人のアナウンサーがオンラインでスピーチ指導をしました。

[2021年5月23日・6月5日実施]

災害復興支援

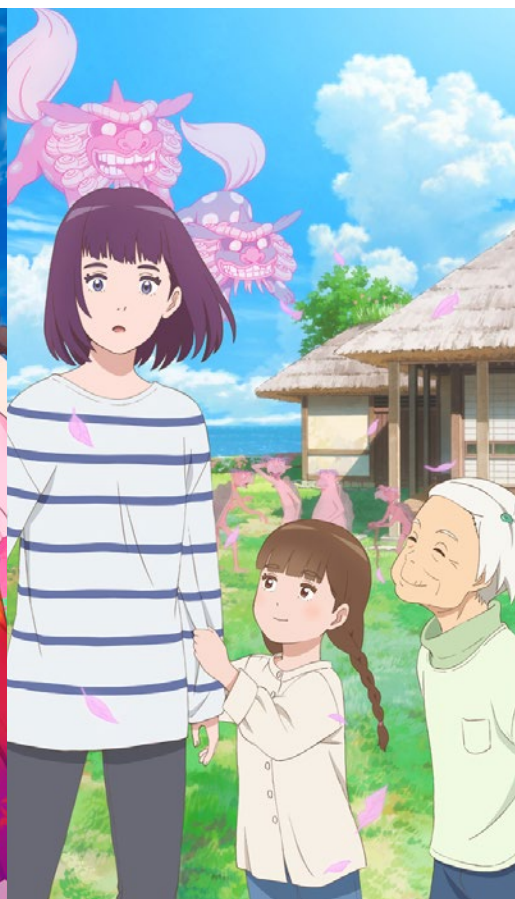
Support for
the Disaster-affected Areas・BCP



©映画バクテン製作委員会



©BNP, FUJITV/おしやれサロンなつなぎ



©柏葉幸子・講談社/2021「岬のマヨイガ」製作委員会

ずっと おうえん。 プロジェクト 2011+10...

「ずっとおうえん。プロジェクト 2011+10…」

「ずっとおうえん。プロジェクト 2011+10…」は、東日本大震災発生から10年となる2021年に、フジテレビがアニプレックス、BSフジ、イオンエンターテイメントと共同で立ち上げたアニメ制作を通じた被災地復興支援プロジェクトです。アニメ作品をきっかけに多くの方が被災地を訪れ、自然や文化、食の魅力に触れて頂き、長期的な支援につながることを目的としています。岩手県・宮城県・福島県の被災3県を舞台にした3本のテレビアニメ・長編アニメ映画を2021年度に放送・公開しました。なお、このプロジェクトは、フジテレビが2011年の発災直後から実施している「ずっとおうえん。プロジェクト」の関連プロジェクトです。舞台となった地域の自治体と様々な観光支援の取り組みを行いました。

『バクテン!!』 2021年4月～6月 フジテレビ“ノイタミナ”枠にて放送・2022年映画化

「笑ったぶんだけ高く、泣いたぶんだけ強く」 高校の男子新体操部の門を叩いた主人公の双葉翔太郎が、個性的な仲間とともに、挫折を味わいつつもひとつの目標に向かってひた走る青春ストーリー。宮城県岩沼市が舞台となっています。

『岬のマヨイガ』 2021年8月27日公開

岩手県の沿岸地方にある「狐崎」を舞台に、被災した身寄りのない少女と主婦、そして、その2人に救いの手を差し伸べる老婆の3人が、古民家で共同生活を営みながら、遠野物語を彷彿とさせる伝承や妖怪に会おうファンタジー作品。[原作: 柏葉幸子]

■毎日映画コンクールアニメーション映画賞受賞

『フラ・フラダンス』 2021年12月3日公開

福島県いわき市にあるスパリゾートハワイアンズのダンシングチーム通称フラガール。フラガールを仕事に選んだ新入社員・夏風日羽と同期の仲間たち、そして彼女たちを取り巻く人々との絆を描くオリジナル長編アニメーション映画。

■第31回 日本映画批評家大賞 アニメーション作品賞受賞

メディアの壁を超えて

民放NHK6局共同防災プロジェクト 「キオク、ともに未来へ。」

2021年3月、東日本大震災から10年を機にNHKと在京キー局が集まり、防災について考える共同プロジェクト「キオク、ともに未来へ。」を立ち上げました。「テレビに何ができるのか？」と各局のアナウンサーたちが、勉強会を開きながら考えてきたその成果として、2年目となる2022年もNHKに各局アナウンサーが集結し、それぞれの防災への取り組みを報告。それをもとに未来の命を救うための方法について議論しました。また、次世代に伝えていく取り組みとして、初めて防災出前授業を実施。どうすれば防災を“自分ごと”にできるのかを中・高校生とともに考えました。



司会：NHK塚原愛アナ・伊藤利尋アナ



NHK『明日をまもるナビ スペシャル「未来の命を救いたい」』に各局アナが集結



災害から身を守るために「テレビに何ができるのか？」をテーマに、各局のアナウンサーたちが、勉強会を開きながら考えてきました。番組では、その成果として、各局のアナウンサーがそれぞれの防災への取り組みを報告し、それをもとに未来の命を救うための方法を考えました。

[2022年4月3日10:05～11:05放送]

プロジェクトとして初めて防災出前授業を開催



広尾学園の中学・高校生の有志41人に対して、佐々木恭子アナが防災について考える出前授業を行いました。宮城県石巻市とリモートでつなぎ、津波を経験するも九死に一生を得た安田さんの体験をもとに“未来につながる防災”についてディスカッションしました。

[2022年3月14日実施] ※NHK・TBSと合同開催

『わ・す・れ・な・い 行動検証 巨大地震その時…』



貴重な体験を語ったテレビ朝日の野村真季アナウンサー

これまで主に津波の映像検証を続けてきた「わ・す・れ・な・い」シリーズですが、震災から11年、改めて「地震の揺れ」に注目しました。あの日、関東地方では建物の倒壊等で18人が亡くなりました。そこで、首都圏を襲った揺れの瞬間を捉えた映像を多数集め、関係者から証言を得ました。路上、自宅、飲食店、高層ビル、空港、駅…どこで地震に遭うかわからないことと、その時、何が起きるのか…をイメージしてもらった番組を放送し、「すっかり忘れていた揺れの恐怖を思い出した」という感想も多く聞かれました。

[2022年3月11日14:45～15:45放送]

わ・す・れ・な・い

報道番組における福島第一原発取材

『Live News イット!』では、東日本大震災から11年の企画として榎並キャスターが、2023年に放出を予定している福島第一原発での「処理水」を取材。「処理水」の放射線量測定への立ち合いがテレビで初めて許され、空気中の放射線量とほとんど変わらないことがわかりました。

[2022年3月11日放送]

news
イット!

災害復興支援

Support for
the Disaster-affected Areas・BCP

■ たくさんの人が訪れる桜並木を ふくしま浜街道 桜・プロジェクト



地震や津波、更に放射能の影響を受けた福島県で「30年後に子どもたちが誇れる桜並木を作りたい」という思いからスタートした「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」。フジ・メディア・ホールディングスはその趣旨に賛同し、2013年度から苗木を購入し、現地での植樹活動を継続しています。2022年1月22日には、5社から23人が参加し、感染対策をしながら国道6号線の土手の斜面に、2メートル以上もある苗木45本を植えました。

活動実績

2013年度からの
累計寄贈本数

1,405本

「ずっとおうえんプロジェクト」

フジテレビでは、被災地を「ずっと」わすれないという思いで、2011年からニーズに合わせた被災地復興支援を行っています。2021年度は、2019年と2021年に豪雨被害を受けた佐賀県武雄市を2度にわたって訪れ、以下の活動を行いました。

活動実績

2011年～2022年3月末まで

211ヶ所を訪れ、約2万5,860人を対象に実施 (2022年3月末現在)

**フジテレビ
ずっとおうえん
プロジェクト**

県立武雄高校でミニ「あなせん」と動画制作指導



武雄高校放送部の皆さんにミニ「あなせん」を実施。放送部は佐賀県高校放送コンテストや全九州高校総文祭に向けて、災害に関するVTRを制作中ということで、動画制作に関してアドバイスをしたり、発声・滑舌や伝わる話し方のコツ等を伝授しました。

[2021年12月4日実施]

武雄市立朝日小学校で「あなせん特別編」



フジテレビ 安宅晃樹アナ サガテレビ 橋爪和泉アナ

朝日小学校では、5年生66人に対して「あなせん特別編」を実施。今回は通常の発声・滑舌、話し方のコツを教える「あなせん」に加えて、テレビや新聞、インターネット等のメディアの情報との向き合い方についての「メディアリテラシー」の授業も初めて行いました。

[2022年3月22日実施]

■ いかなる場合でも放送を継続するために

BCP対策・防災への取り組み

FNN系列各局と協力して毎年大規模な災害放送訓練を実施しています。2021年度は「千島・日本海溝沖地震」(北海道釧路沖が震源となる震度6強地震が発生し、津波が到達)を想定した訓練を行いました。

特にビデオポスト映像の迅速な素材化、スカイプ中継、そして系列各局のヘリと中継車によるヘリダウンリンク中継について検証し、FNN各局の報道機能が低下した際の連携や、スマホを使った取材について確認しました。

浮かび上がった問題点や課題を分析し、各局の態勢づくりに活かしていく他、日頃から速やかな放送を心がけて定期的に訓練しており、今後も継続していきます。



春と秋に全社で「防災ウィーク」を実施

2011年から「防災ウィーク」と称して社内で働く人たちを対象とした防災訓練を毎年2回、約1週間にわたり行っています。コロナ禍の訓練として2021年秋は、社屋内の備蓄食料の保管場所等防災知識を身に付ける目的で、Webによるクイズ形式の「防災eラーニング」を実施しました。

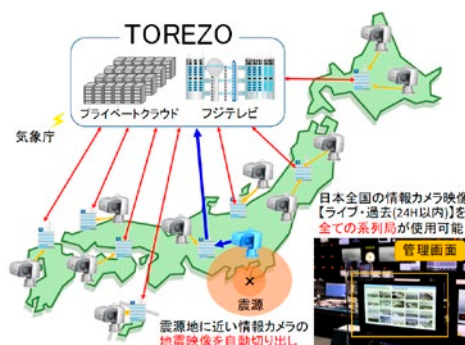
2021年秋と2022年春には、食品ロス削減の取り組みも兼ねて備蓄食を配布。多くの社員・スタッフが災害時の“食”を体験しました。また、発災時の初動対応や災害対策本部会議等Web上でチームを作成することで、出社困難な状況下での情報共有や密な状況での会議を回避すべく対応しています。



■ 災害時の映像を自動で切り出し共有可能に

TOREZOの開発による災害時の自動映像送出

災害情報カメラ収録システム“TOREZO”は、日本全国に広がる情報カメラ映像の自動送出を実現し、従来、FNN系列各局が個別に運用していた情報カメラの映像を全国で一括管理して収録。地震発生時には、自動的に地震による揺れ映像を切り出すことで系列局すべてが地震映像を即座に送出できるシステムです。気象庁からのリアルタイム震度情報を利用し、地震映像切り出しの高速、高精度化を実現。この技術開発で、地震報道の迅速化を達成し、費用削減にも貢献しました。



民放連の【技術部門】最優秀賞を受賞

Pick up!

東日本大震災キャンペーン「#知り続ける」に「フジテレビュー!!」も参加

「知るは、チカラになる。」をテーマに、東日本大震災の被災地の今を知り、これからを考えるヤフー、LINEが中心となった取り組みに、フジテレビも参加しました。震災から11年経った今も、町の面積の1割は帰還困難区域に指定されている富岡町の様子や、日本記者クラブ取材団の一員として、福島第一原発の敷地内に入った記者による現状報告等記事10本を「フジテレビュー!!」にアップしました。

<https://www.fujitv-view.jp/article/post-513765/>
<https://www.fujitv-view.jp/article/post-515657/>



共生社会をめざして

For Inclusive Society



パリンピックのシンボルカラー・アギトスカラーに社屋をライトアップ

社屋イルミネーションAURORA[∞]を活用して アウェアネスカラーライトアップを実施

フジテレビの社屋イルミネーションAURORA[∞]（オーロラ）を活用し、社会課題への支援の意思を色で表すアウェアネスカラーのライトアップを2015年から継続しています。

4月2日 …………… 世界自閉症啓発デー	●	10月30日-11月7日 …… 児童虐待防止	●
4月23-25日 …… LGBT等 인권啓発	●	11月11-13日 …… DV・暴力根絶	●
7月30日-8月1日 …… 水の日	●	11月14-16日 …… 世界糖尿病デー	●
9月18-21日 …… 国際平和デー	○	11月29日-12月1日 …… 世界エイズデー	●
10月1-3日 …… 乳がんの予防啓発	●	1月20-23日 …… 障害者権利条約発効日	●
10月15-17日 …… 臓器移植への理解促進	●	3月7-9日 …… 国際女性デー	●

オレンジリボンでお祭りとコラボ



フジテレビが毎年支援している「ドリーム夜さ来い祭り」。11月のオレンジリボン=児童虐待防止運動とコラボレーションしました。お祭りの前後、オレンジ色にライトアップされた社屋を前に踊り子たちはオレンジ色のリボンをつけて踊りました。

東京2020大会 パリンピックの特別番組を放送

2021年8月から9月にかけて東京で開催されたパリンピックに際し、3つの特別番組を放送しました。

パラスポーツ、パラアスリートの魅力を、支える人・歴史・日常生活等と共に知って頂くことで、多くの方が“生きる力”に変え、また、障害の有無に関わらず、みんなが普通に、一緒に生きていける社会であって欲しいとの思いで制作しました。

『東京パリンピック開幕直前SP
～超越アスリートを支える「言葉」～』



[2021年8月22日 14:00～14:55放送]

『車いすバスケットボール』中継



[2021年9月4日 16:00～17:55放送]

『ブラインドサッカーハイライト』



[2021年9月5日 12:00～13:00放送]

■ 世界の子どもたちの笑顔のために

FNSチャリティキャンペーン



「世界の子どもたちの笑顔のために」をテーマに1974年から48年間にわたり実施しているチャリティ活動です。フジテレビ系列各社及びBSフジが、放送やイベント等で募金活動を行い、ユニセフを通じて国際貢献を続けてきました。これまでの募金総額は44億円に達しており、アジア・アフリカ等世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。

2年連続で「モザンビーク共和国」を支援

2021年度の支援国モザンビーク共和国は、アフリカ南東部にある世界最貧国のひとつで、人口の約半数が1日1.9ドル未満を下回る生活をしており、5歳未満の子どもの43%は重度・軽度の栄養不良に陥っています。

2021年度の最終寄付総額

2,199万8,539円

経費を控除した**1,997万7,894円**が、公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地の子どもたちの支援に活用されます。



【放送による募金の呼びかけ】

2022年2月24日『めざまし8』でリモート取材を含めた現地の最新情勢を伝える企画を放送し、募金を呼びかけました。

【イベントにおける募金活動】

自動販売機を利用して、地方の物産品や、パン、オリジナルグッズ等を販売したり、菓子パンやはちみつ等のオンラインもしくは対面販売を実施し、売上の一部を寄付しました。

【フジテレビ製作の映画収益からの寄付】

映画『コンフィデンスマンJP 英雄編』の収益から総額600万円を寄付しました。

第39回フジサンケイレディスクラシックでチャリティオークション

伝統あるゴルフトーナメントで「チャリティオークション」を実施しました。選手より善意で提供された品々をネットオークションに出品、収益金を国際医療NGO「ジャパンハート」を通じて、静岡県伊東市を中心とする医療従事者支援に役立てました。

〔2021年4月23日～25日〕オークションは23日～29日まで実施

落札総額:

277万7,922円 >> **262万4,039円**

手数料:153,883円

最終寄付額:

国際医療NGO「ジャパンハート」へ



視覚障害者のために アナウンサーが書籍を音訳

日本点字図書館にてアナウンサーが蔵書朗読録音ボランティアを2009年より継続しています。視覚障害者のために書籍を音読み録音、ネットで配信されています。



そらぶちキッズキャンプを支援

北海道滝川市にある難病の子どものためのキャンプ施設「そらぶちキッズキャンプ」を2009年よりサポートしています。



Make-A-Wish Japanに協力

難病と闘う子どもたちの夢をかなえ、生きる力や病氣と闘う勇気を持ってもらいたいと活動しているメイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンの主旨に賛同し、夢の実現をサポートしています。

国連ウィメン日本協会へ寄付

途上国を中心に「世界中の女性に教育と労働の場を」という理念の下、ジェンダー平等と女性エンパワメントを推進する国連ウィメンを支援しています。

地球環境のために

For our Planet



花と緑のフラワーフェスタ

お台場環境行動宣言

フジテレビは、気候変動が地球規模の課題となる中、放送の公共的使命と社会的責任を強く認識し、番組やイベント等を通じて、地球環境の保全と、脱炭素社会の実現に努めてまいります。

伝える、まもる



テレビの強みである創造力と発信力を活かし、番組やイベント等を通じて、気候変動の現状を伝え、地球環境の保全を呼びかけます。



臨海副都心の自然環境や海洋資源、生態系の保全に向け、地域コミュニティ、行政等との連携・協力を強化し、住み続けられる街づくりや環境との共生を目指します。



循環型社会の実現に向け、クリーン・エネルギーの活用や省エネ・省資源を推進し、企業活動から生じる環境負荷の低減に努めます。



地球環境の保全に向けて、社員の意識向上に努めるとともに、環境関連の法律や規制を遵守し、社会的責任を果たします。

2022年3月改定

フジテレビは、これらを通して、持続可能な社会の実現を目指します

● 社内の『3R』の取り組み

REDUCE [発生抑制]

REUSE [再利用]

RECYCLE [再生] を呼びかけ、

全社で地球環境改善のための取り組みを実施しています。

その結果

2021年度のゴミリサイクル率は99.9%でした。

● 温室効果ガス削減への取り組み

地球温暖化防止のため温室効果ガス排出量の削減に計画的に取り組んでいます。

2021年度のフジテレビ本社ビルの二酸化炭素CO₂の排出量は17,973(速報値)トンで、25%の削減目標を大きくクリアして約41%削減を達成しました。(2020年度は約35%削減)

「ふくのわプロジェクト」

要らなくなった衣服を回収・売却し、その収益金をパラスポーツの支援に充てる「ふくのわプロジェクト」に参加しています。2020年7月より社員食堂の横に衣類回収ボックスを設置しています。



2021年4月～2022年4月末までに

950.83Kgを回収・寄付しました。 >> **1.8t!**

(主催：産経新聞社)



57人が参加し70Lのゴミ袋10個分のゴミを回収

環境美化活動で地域をきれいに

「東京2020参画プログラム」として 清掃活動を実施

オリンピック開幕2週間前となる7月9日、競技会場が多く集まる臨海副都心エリアをきれいにする合同清掃活動を行いました。この活動は「東京2020参画プログラム」として正式に認証されたものです。

[2021年7月9日実施]



フジ・メディア・ホールディングス 合同清掃活動を実施

フジ・メディア・ホールディングスでは、有志による合同清掃活動を2012年より継続しています(年3回開催)。2021年度は東京2020大会前に開催した上記の他、3月と10月に実施。お台場を訪れる人たちが、快適に過ごして頂けるよう、地域の美化に貢献しています。

[2021年7月9日・10月8日/2022年3月10日実施]

臨海副都心まちづくり協議会と連動した活動

「花と緑のフラワーフェスタ」 & 清掃活動に参加

2021年11月、フジテレビ本社ビル裏手のシンボルプロムナード公園で「花と緑のフラワーフェスタ・チューリップ球根植え」を行いました。これは東京都臨海副都心まちづくり協議会が、環境プロジェクトの一環として毎年行っている活動で、フジテレビからは15人が参加、春には見事な花を咲かせました。また、2022年3月には、同じエリアでの清掃活動にも参加しました。

[球根植え:2021年11月25日・清掃:2022年3月16日実施]



27団体120人で植えた球根は2万球!

従業員とともに

Human Resources
and Well-being



社員食堂 レストランDAIBA

働きやすく、成長が実感できる職場環境づくり

社員が働きやすい職場環境を実現するために、様々な制度を通じてサポートする体制を整えています。

多様な人材を採用

国籍、学歴、性別を問わず、あらゆる人材を幅広く採用し、その能力を発揮できる環境づくりに努めています。海外の大学を卒業する留学生や、外国籍の方の採用も行っています。障害者雇用についても積極的に行っており、番組制作現場で働く社員もいます。また、社員が自らの成長を実感しながら仕事に取り組めるよう、様々な研修制度やセミナーを実施しています。定年を迎えた社員も65歳までの継続雇用を行い、それまでの経験を活かした業務や後進育成を担っています。

■ インターンシップ制度

採用活動とは別に、仕事の理解を深めてもらうためアナウンサー、バラエティ、ドラマ、報道、情報、スポーツ、美術、技術部門で学生に向けた就業体験を行っています。

社員のために

より柔軟な働き方・多様な働き方を推進することで生産性の向上をめざすとともに、一人ひとりが仕事とプライベートをともに充実することができるような制度を設けています。

■ ワークライフバランス

- 有給取得奨励日を設け、まとまった休みを取りやすくしています。
- 年次有給制度を1時間単位で取得できる制度を導入

■ 復職支援

- 復職支援制度
長期の傷病休職から円滑に復職できるようサポート制度の充実
- ジョブリターン制度
配偶者の転勤や家族の介護、育児を理由に退職する社員が対象

■ 介護支援

- 介護休業
家族に介護が必要になった場合、最大1年間取得可能

■ 健康管理のために

- 定期健康診断、人間ドック、脳ドック、婦人科検診
- 生活習慣予防指導を実施

■ マルチワーク制度

アナザーワーク(副業)やエクストラワーク(通常業務の外部展開)を可能にすることで、社員が自己の能力や経験を生かし多様なキャリアを形成する機会を提供しています。





2021年度の新入社員



■ 福利厚生制度

社員食堂 レストランDAIBA

レインボーブリッジを一望できる社員食堂。栄養のバランスを考えたメニューや、アジアの子どもたちの教育支援にもつながるチャリティカレー等を提供しています。

- 社内健康相談センター
(健康相談室、歯科診療室)
総合内科・眼科・整形外科等の診療や
健康管理、健康相談等
- 理容室
- 書店

- 軽井沢保養所
- 箱根彫刻の森クラブ
(フジサンケイグループ事務局)
- ペネフィットステーション
(福利厚生アウトソーシング)

■ 女性活躍推進

女性が執行役員や局長を勤める他、2021年度は初の女性編成部長を起用し、女性目線を活かした編成方針や番組編成を行っています。なお、女性活躍推進法に基づく行動計画として次の2点を目標としています。

目標 1

「採用した労働者に占める女性労働者の割合」が30%以上になるように意識して採用活動を進める。

2021年度採用実績

60% (前年比+19.5%)

目標 2

「男女の平均勤続年数の差異」を中長期的な期間でも維持・縮小できるように努力する。

2021年3月末実績

平均勤続年数 男性**20.83**年 女性**18.59**年

■ 育児支援

出産・育児に関わる制度及び問い合わせ窓口を設け、周知を図ることで、女性だけでなく、男性社員の育児休暇取得を推進しています。

- 養育休職は、最長で小学校就学前まで取得可能
- 養育時短は、1日最大2時間 小4の3月まで取得可能 ※一定の条件を満たした場合

Pick up!

夕方のニュース番組『Live News イット!』 榎並大二郎キャスター

妻が妊娠したことを上司に報告した際に、「おめでとう！育休はどうするの?」と言われ、「キャスターも育休を取れる」と知りました。メリットはたくさんありましたが、何より夫婦で一緒に育児のスタートを切れて、妻と力を合わせて子育てをしている、という感覚が生まれたことでしょうか。仕事一筋から、家族との時間も大切にしようと思うようになりました。今でもオンエアが終わるとなるべく早く帰宅して息子をお風呂に入れるのが日課になっています。

育児休職を取得する
男性社員が増えています！

2020年25.5%→2021年33.3%



長男誕生後2週間の育休を取得

視聴者とともに

With
Our Stakeholders



“自己検証”番組を30年以上放送

『週刊フジテレビ批評』

テレビやメディア業界に関わる様々なトピックスを視聴者に届けるこの番組は、民放初の自己検証番組として1992年4月にスタートしました。視聴者から寄せられた意見や「番組審議会」の審議内容、専門家による番組批評とともに、ドラマやバラエティ、スポーツ中継やニュース制作の舞台裏を披露。また、放送の最新技術やBPOの見解発表等テレビにまつわる事柄を解説し、“テレビ”をより深く理解でき「メディアリテラシー」の向上につながる番組を追求しています。近年は、メディアにもその責務が問われている防災やSDGsに関する啓蒙にも積極的に取り組んでいます。

[毎週土曜 5:30~6:00放送]

●番組サイト <https://www.fujitv.co.jp/newhihyo/>

週刊フジテレビ批評



コンテンツのバリアフリー

字幕放送

聴覚障害者やテレビの音が聞こえづらくなった方々にも番組を楽しんで頂くために、テレビの音声を「文字」にして画面に表示する字幕放送を行っています。ニュース等の生放送では、[生字幕=ほぼリアルタイムで字幕を付けること]の付与を行っています。

解説放送

目の不自由な方々にテレビを楽しんで頂くために副音声を使って画面の解説を行う解説放送を行っています。

《2020年度実績》

- 付与可能時間に対する付与率 100%
- 総放送時間に対する付与率 64.2%
- 付与可能時間に対する付与率 13.7%
- 総放送時間に対する付与率 4.8%

■ 視聴者の声を聞く取り組み

番組審議会

番組審議会は、放送番組の適正を図るため、放送法に基づき設置されている審議機関です。2022年4月現在、弁護士、脚本家やアスリート等有識者8人で構成されています。月に1回(8・12月は休会)、あらゆるジャンルの番組を対象に、委員からご意見やご指摘を頂き、議事内容は制作現場へフィードバックされ、番組づくりに活かされています。また、個別の番組に限らず、放送全般についての質問やご意見を頂き、議事録ダイジェストを社全体に共有しています。概要はホームページに掲載する他、『週刊フジテレビ批評』内でも放送しています。

社外モニター制度

一般視聴者の方から社外モニターを募集し、番組に対するご意見を伺っています。アンケート結果や詳細なレポートは制作担当者に届けるとともに、社内イントラネットへの掲載を通じ、社内にも共有しています。また、月に1度「モニター会議」を開き、モニターと制作担当者が番組について直接意見交換を行っています。視聴者から直接ご意見を頂く機会は貴重で、その声が直接番組に反映されることも少なくありません。

ご意見・お問い合わせ

視聴者サービス推進部は、フジテレビの「窓口」として、視聴者からのご意見やお問い合わせを、コミュニケーションを図りながら電話でお伺いするとともにメールによる投稿も受け付けており、今後の番組制作等に役立つよう番組制作者や関係各部署に伝えています。

2021年度に頂いた ご意見・お問い合わせ	●電話 約83,000件 ●メール 約380,000件
--------------------------	--

■ 適切な放送を届けるために

放送コンプライアンス

番組基準を定め、基本的人権の尊重をその基本方針のひとつとしています。取材、番組制作、放送等において、人権を侵害することがないように真摯に取り組んでいます。放送人としての基本的な規範をまとめた「放送倫理手帳」と「放送基準解説書」(一般社団法人日本民間放送連盟発行)を全社員・スタッフに配布しています。また、「放送コンプライアンス委員会」(月1回)を筆頭に、階層ごとに3つの会議を定期的に開催し、迅速な情報共有からトラブル防止の検討まで、活発な意見交換を行っています。



「放送倫理手帳」と「放送基準解説書」

SNS対策部/SNSガイドライン

SNSに関する様々な問題に対応する専門部署として2021年3月にSNS対策部を新設しました。SNSでのトラブルは、社員・スタッフのみならず番組出演者にも及びます。そこでSNSの諸リスクを正しく認識し、様々な問題にも迅速に対処して、適切にSNSを活用できるよう「SNSガイドライン」を策定。①出演者をまもる ②作り手を含む関係者をまもる ③コンテンツをまもる といった3つの理念を掲げており、また、最新動向や情報の更新及び社員に常時携帯してもらうために、このガイドラインをウェブ・アプリ化しています。「SNSやネット上の誹謗中傷や迷惑行為は絶対に許さない」という信念のもとで弁護士・臨床心理士・精神科医等法律及びメンタルケアの各専門家や、SNS上にあるフジテレビの番組・コンテンツ、出演者やスタッフへの投稿を24時間365日検知するモニタリング体制も備えています。また、有識者による社内勉強会を開催するなど、SNSリテラシー向上に努めています。



ガバナンス・マネジメント体制

フジテレビでは、放送の公共的使命と社会的責任を認識し、全ての人が平和に共存し、心身ともに健やかな生活を維持できる世界の実現に努めます。基本的人権の尊重等民主主義の原則を貫き、公平かつ平和で自由な社会を守るために努力します。そのためにコーポレート・ガバナンス／内部統制／コンプライアンスの仕組みを整備し、実効性を高め、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上をめざして、社会からの信頼に誠実に応えて参ります。

- コーポレート・ガバナンス / 内部統制 <https://www.fujitv.co.jp/sustainability/worklife/governance.html>
- コンプライアンス <https://www.fujitv.co.jp/sustainability/worklife/compliance.html>

フジテレビの番組や放送技術が数々の賞を受賞しました！

[2021年4月～2022年6月の主な受賞履歴]

【ギャラクシー賞 報道活動部門 選奨受賞】

『Live News イット!』等で報道局が6年間にわたって追及してきた「税金を使った政治家の海外視察についての調査報道」が第59回ギャラクシー賞報道活動部門選奨を受賞しました。報道活動部門での入賞はフジテレビ史上初です。



【国際メディアコンクール・ニューヨークフェスティバル4部門で銅賞受賞】

ドラマ部門銅賞・演技部門銅賞（主演女優・上野樹里）銅賞をダブル受賞

『監察医 朝顔』

[2020年11月～2021年3月放送(第2シリーズ)]

ドキュメンタリー・Human Concerns(普遍的関心)部門銅賞

『ザ・ノンフィクション ボクと父ちゃんの記憶～家族の思い出 別れの時～』

[2021年10月17日 14:00～14:55放送]

ドキュメンタリー・Social Issues(社会問題)部門銅賞

『ザ・ノンフィクション あの日妹を殺されて～罪を憎む男が選んだ道～』

[前編2020年9月27日 14:00～14:55放送]

[後編2020年10月4日 14:00～14:55放送]



『監察医 朝顔』



『ザ・ノンフィクション
ボクと父ちゃんの記憶～家族の思い出 別れの時～』



『ザ・ノンフィクション
あの日妹を殺されて～罪を憎む男が選んだ道～』

【日本民間放送連盟賞で3つの賞を受賞】

2021年日本民間放送連盟賞【番組部門】テレビ教養番組部門の優秀賞

『ザ・ノンフィクション 生まれてくれて ありがとう～ピュアにダンス 待寺家の17年～』

[2020年6月7日 14:00～14:55放送]

2021年日本民間放送連盟賞【技術部門】最優秀賞

「災害情報カメラ収録システム“TOREZO”の開発

～日本全国に広がる情報カメラ映像の自動送出を実現～」

※詳細は16ページ参照

(第49回映像情報メディア学会進歩開発賞(現場運用部門)も受賞)

2021年日本民間放送連盟賞【技術部門】優秀賞

『超逆境クイズバトル!!99人の壁』リモート収録システムの開発

[2020年6月7日放送]



『ザ・ノンフィクション
生まれてくれて ありがとう
～ピュアにダンス 待寺家の17年～』



『超逆境クイズバトル!!99人の壁』

CSR・SDGs 推進体制



CSR・SDGs推進会議プロジェクトチーム

フジテレビのCSR

フジテレビでは、メディア企業としての社会的責任を果たすべく、2006年6月からCSR専門部署を設け、多岐にわたる活動を行っています。映像コンテンツ・エンターテインメントを通じて人々に正しい情報や感動、楽しさを提供し、社会課題の解決につなげていくことを目標としています。



リモート会議の様子

推進体制

各部局から集められた約50人の社内横断組織を構成し、そのメンバーとともに活動を実行しています。役職、年齢等に関係なく多様な人材が集まることで、より豊かな発想とアイデアが生まれ、数多くの企画が実現しています。また、メンバーを毎年入れ替え、社内のCSR・SDGsに対する理解の浸透を図っています。



SDGsアクションレポート2022 編集方針

本レポートは、2021年度にフジテレビが「次世代育成」「災害復興支援」「共生社会」「地球環境」のために行った活動をまとめたものです。本業である放送事業とエンターテインメントを活かして、フジテレビらしさを大切に多岐にわたる取り組みを行ってきました。活動内容は公式サイトを通じて随時公表していますが、より読みやすく、皆様にご理解頂きやすいよう編集しました。SDGsの課題解決に向けて実施した取り組みを知って頂くきっかけになれば幸いです。

対象期間 2021年度(2021年4月～2022年4月)

対象範囲 本レポートにおける対象範囲はフジテレビを基本とし、一部の活動実績は、フジ・メディア・ホールディングス、フジサンケイグループとして実施したものも掲載しています。

発行: 株式会社フジテレビジョン Fuji Television Network, Inc.
〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号
編集: CSR・SDGs推進室 ✉ csr.ss@fujitv.co.jp

サステナビリティサイトを新設!

これまでのCSRサイトをリニューアルし、新たにサステナビリティサイトとしてオープンしました。
<https://www.fjitzv.co.jp/sustainability/>



